

第 56 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：湿地と樹林環境の順応的管理—

今回の研修会は、座間谷戸山公園の運営会議からの依頼で、谷戸の湿地の管理作業を午前中にやることになりました。午後は樹林環境の順応的管理です。



当研究所のプロ講座受講生で、現在は公園管理者の一員として働く齋藤さんから説明を受け、ボランティア団体と一緒に谷戸の湿地の草刈り作業を行いました。



この時期に刈っておけば、春に色々な植物が出てきやすくなります。とはいっても、この時期の湿地の草刈りは大変です。枯れ草の表面にはうっすらと霜が。。



その中で特に大変だったのが、ガマ・ヨシの
抜き取り。土中で地下茎を横にのばして
増えるこれらの植物は、土を掘って根から
全て抜かないといけないからです。



抜き取りは完全にはできませんでしたが、
みんなで協力してなんとか全体の草刈りは
終わることができました。



その後、改めて湿地のことや
今回の作業についての詳しい説明を受け、



刈ったあとを耕し、さらに色々な植物が芽を出しやすいような環境をつくってあげます。この場所で今回のような作業は初めてなので春が楽しみです。これで午前中は終了です。



お昼休み、日なたでご飯を食べていると、受講生がモズの‘はやにえ’を発見しました。どうやらコバネイナゴを捕らえたようですね。



午後は恒例の環境に関する記事の発表からスタート。月に一回ですが、毎回色々な情報が発表されます。



次は、昨年も間伐を行ってきたコナラとイヌシデが中心の樹林地での作業です。
昨年間伐した常緑樹のヒサカキとシラカシの株からは、いくつもの細い枝が萌芽していました。
(写真右の左側がヒサカキ、右側がシラカシ)



切り口ではなく、脇から萌芽してくるんですね。



これは萌芽した枝ではなく、ドングリから芽を出したシラカシの実生です。根がまっすぐ下に伸びるほど、ここの土は柔らかくていい土だということが分かります。



今回は萌芽した部分をみんなで刈っていきました。



場所は変わって、ここはスギ・サワラが植林された樹林地です。昨年から間伐を行っているところですが、今回は時間の関係で解説と観察のみとしました。



植物を観察する際、見ることも大事ですが、匂いを嗅いだり、手で触ってみたりすることもとても大事です。みなさんも植物を観察する時は実践してみてください。



園内の水鳥の池を眺めると、
もうすっかり冬の景色でした。

これで今回の研修会は終了です。

湿地も樹林もそうですが、現場に行くと教科書にも載っていないような色々なことをいっぱい感じることができます。きっと貴重な経験になると思いますので、まだ参加されたことのない方は、是非一度参加してみてください。次回の**1月16日(土)**は、樹林環境の順応的管理を引き続き行っていきます。